

かんのくらうしろやまいせき  
**神倉後口山遺跡とは？**

## 始まりは、地域に伝わる「不思議な場所」の話から

「山の中に、石が多く積まれ草が生えない不思議な場所がある」――

そんな地元の方からの情報がきっかけで調査が始まりました。

その地には修験（※1）にまつわる名前が多く残り、かつては神倉側からも三徳山へ通じていたという、深い関わりが伝えられています。

※1 修験：山を特別な場所と考え、お祈りや瞑想などの修行を行うこと。

## 姿を現した人工的な「構造物」

平成23年からの調査により、山の中で人の手によって作られたと思われる構造物（石列）がたくさん確認されました。

三徳山の頂が見えるこの地において、かつて組織的大規模な修行や儀礼の空間が広がっていたことが明らかになりつつあります。

## 「遺物が出ない」というミステリー

通常、遺跡からは当時の道具（土器など）が見つかりますが、ここでは裏付けとなる遺物がほとんど発見されていません。（※2）

そのため、いつ誰がこの場所を築いたのか、詳細な時期や変遷は未だ謎に包まれています。

※2 修験の場では、持ち込んだ道具は必ず持ち出すという作法があり、後に残りにくい性質があります。

## 地域の歴史を考える貴重な遺構

学術的な確定要素は少ないものの、三徳山周辺の信仰の歴史を考える上で、非常に注目されている遺跡です。

私たちは今、郷土に眠る知られざる歴史の断片を、未来へつなぐための一歩を踏み出しています。



いわくら  
遺跡内「湯地点」にある磐座。  
後方には三徳山山頂を望む。



遺跡内「イケガナル地点」の様子。  
礎石立ちの建物跡と思われる構造が確認されている。